

対話研究会 2022年8月17日

反省させると  
犯罪者になります  
(新潮新書)

# 著者紹介

岡本茂樹氏（1958～2015）

立命館大学産業社会学部教授

臨床教育学博士

高校教員を経て、不登校や非行、神経症などの臨床経験を積む。大阪刑務所で職員に指導・助言するスーパーバイザー、熊本刑務所で民間の篤志面接委員として受刑者の更生支援にかかわる

脳腫瘍の闘病中、56歳で死去

# 著書

「ロールレタリング——手紙を書く心理療法の理論と実践」 (2012年、金子書房)

「反省させると犯罪者になります」 (2013年)

「凶悪犯罪者こそ更生します」 (2014年)

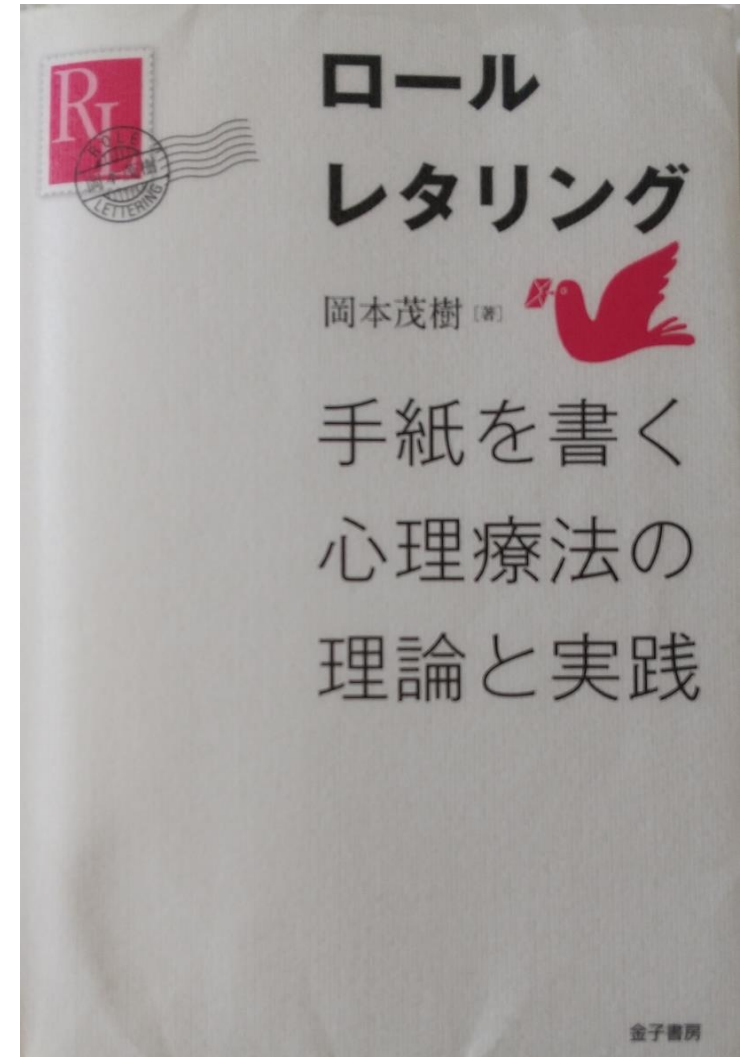
「いい子に育てると犯罪者になります」 (2016年、以上新潮新書) など

# ロールレタリング (Role Lettering)

読まれないことを前提に、「自分から相手へ」、ときには「相手から自分へ」手紙を書くことによって、自分自身の内面を見つめる心理技法。話し言葉で手書きする。

Role Playingから発想した造語。役割交換書簡法とも呼ばれていた。1983年、熊本県の少年院で生まれ、医療、福祉、看護、学校教育で使われている。

ヒントになったのはゲシュタルト療法という心理療法の「空椅子の技法」。向かい合う二つの椅子に1人が交互に座り、椅子に相手がいると思って語りかけ、それぞれの立場になりきって「今、ここで」の気づきを得る。どちらも「自分」と「相手」の間の「やりとり」を行う心理技法。



# 偶然見つかった 否定的感情を吐き出す手段

仮退院の直前、義母に引き取りを拒否されて荒れ始めた少年に、法務教官の和田英隆が「思っていることをお母さんに訴えてみなさい」と原稿用紙を渡したところ、少年は義母への不満や怒りを一気に書き、気持ちが一掃して、落ち着きを取り戻した。

少年の変わる姿を見て、和田と少年院の次長春口徳雄らが研究を始め、全国の少年院に広まった。

# 矯正教育では形骸化

ところが、せっかく日本中の少年院に広まったのに、ロールレタリングは「反省」の「道具」になっている。

矯正教育では「反省した」という「結果」を早く求めようとする傾向がある。内面を見つめられれば相手へのたった1行でも少年は変わる。しかし、マニュアル化した決まったパターンで早期に相手の立場で手紙を多数書かせようとするのが現状。

自分の内面を見つめるには時間がかかり、気づきを得るには支援者にかなりの力量が必要。だが、そうした理解が教官に乏しく、むしろ少年の否定的感情に蓋をして抑圧を強めている。少年にとっては、教官が気に入るような文面をたくさん書けばいいという「反省文の書き方講座」になって形骸化している。

# 根底に一般の“常識”

「人は悪いことをしたら反省することが当たり前」

…人の心に刷り込まれている

→反省した態度を示さないと、社会的にも処遇上も不利になる

→上辺だけの反省で、否定的感情を抑圧したまま少年院を出て、再犯

# 本来のロールレタリングの効果

「ロールレタリング」より

吐き出しによるカタルシス効果



自己理解



他者理解



自己受容と他者受容



# どうすればいいのか？

- 反省は抑圧につながる。反省の前に心の大掃除（本音の否定的感情を吐き出す。「心のウンチを出す」、「ゲロを出す」）
- 幼少期の価値観刷り込みに気づき、自分を客観的に見つめる（～ねばならない、甘えるな、もう中学生なんだから）
- 支援者が必要（ありのままの自分になってグチや本音を言える人間関係を持つ）

- ・子どもが本音を話している時に正論、説教を言うてはいけない。

(正論は相手の心を閉ざす「言葉の凶器」)

▽以下「いい子に育てると～」より

- ・「思考」ではなく「感情」を重視

(自分の気持ちや感情を素直に表現し、自分自身を受け入れる。すると他人の言動の受け止め方が変わり、人に対する表現の仕方や嫌な人に対する見方が変わる)

- ・感情を抑制する「大丈夫？」は避ける

(子どもが道でころんだら「痛かったでしょう」と相手の感じ方を推測して声をかけ、気持ちを言いやすくする)